



いう土地と直方市民への感謝の気持ちが大きいんです。このような交流が、私たちの仕事に対するモチベーションを上げてくれています。

○**牧場としてこれから挑戦していきたいこと、伸ばしていきたいことを教えてください。**

牛の頭数が増え、牧場の規模も徐々に大きくなってきました。また従業員が増えたことで、私も外で活動することが可能になりました。挑戦していくことも大事ですが、まずは皆が働く環境を整え、会社の土台をしっかり作ることが大切だと思っています。その上で様々なことにも挑戦したいと思っています。

○**これから就職する学生・若者にメッセージをお願いします。**

伝えたいことは二つあります。一つ目は、感謝される仕事をする事です。仕事は人のため、社会のためにあります。また、誰かに感謝されるような仕事は、自分の仕事のやりがいにもつながります。

二つ目は、先を見通すことです。大きな目標を持ち、今やっている仕事の先に何があるのかを考えることが大切です。そうすることで、いつか仕事で壁にぶつかっても乗り越えていくことができます。



河川敷自給粗飼料を活用した酪農と肉用牛繁殖の複合経営

農事組合法人 楠木酪農生産組合 (松野牧場)

シリーズ「地場産業を知ろう」第11回 学生レポート

市民の方に地場産業を知ってもらおうと、大学生が市内の企業を取材しました。今回は、農事組合法人楠木酪農生産組合をご紹介します。

トップインタビュー



組合長
松野竜大さん

○楠木酪農生産組合（松野牧場）の事業内容と、松野さんが組合長として牧場を経営するようになった経緯を教えてください。

当牧場は、酪農として乳牛の飼育と搾乳、そして肉用牛として黒毛和牛の飼育と出荷、人工授精による繁殖等を行っている畜産農家です。ここで育てた子牛は、全国に出荷されてブランド牛になります。

もともと、この地域の人たちが経営していた牧場を、私の祖父が北九州市から引越して来て引き継ぐという形で直方での酪農経営が始まりました。同時に父も就農しました。私は実家が牧場という環境で育ったので動物と触れ合うことが好きで、幼い頃から自然と牛飼いにしたいという思いがありました。

また、高校生のときに獣医師の資格を取りたいと思い、一生懸命勉強して獣医師資格が取得できる大学に進みました。

大学卒業後は福岡県酪農協同組合連合会に獣医師として5年間勤務し、その後父からこの楠木酪農生産組合を引き継ぎ、現

社員に直撃取材



牧場長
中野郁弥さん

○どのような業務に携わっていますか。

6年目で牧場長という立場にあり、通りの業務を行うことができます。社員全員がそろっているときは牛舎の掃除をしたり、河川敷に牧草（粗飼料）を作りに行ったりしていますが、それ以外はシフトで休んでいる同僚の業務をするようにしています。

○この仕事を選んだ理由を教えてください。

もともと親が人工授精師で、鹿児島の実家でも和牛繁殖を行っていて、ゆくゆくは自分も和牛繁殖をしていきたいという憧れがあったためです。生活の一部に牛の存在があったことが大きいですね。

○社内の雰囲気や職場環境はどんなですか？

社員の平均年齢が若く、明るく活気のある職場です。また「資格を取りたい」「この業務がしたい」など発言したことを組合長が尊重してくださるので、とても働きやすい環境だと思います。

○ご自身が感じる酪農の魅力や誇れることを教えてください。

実家で幼い頃から見ていたせいか、酪農よりも和牛繁殖に魅力を感じています。自分たちが育てた和牛が競りに出されて、他の人がどう評価するのか、どのくらいの値段がつくのかということに純粋に魅力を感じます。

誇れることは、地域イベントへの参加や牧場見学を受け入れ、幼稚園児や小学生に

在に至っています。

○牛を育てることで特に留意していることを教えてください。

一番気を付けているのは牛への接し方です。牛はおとなしくて臆病な性格だと思われがちですが、育てられた環境や育てた人によって性格は大きく変わってきます。人間の子どものと同じです。私は牛に優しく接することで牛が穏やかな優しい性格に育つように努めています。

また、食品を生産しているという意識を常に持ち、衛生面には気をつけるようにしています。

○畜産業は生き物を相手とする仕事のため、非常にハードなイメージがあるのですが、実際の労働環境について教えてください。

世間には家族経営の牧場もありますが、当牧場では正社員6人、パート従業員2、3人を雇用しています。生き物を相手とする仕事ですから仕事自体は365日ありますが、基本は8時間勤務のシフト制で、皆が交代で休みを確保できるようにしています。また、有給休暇はもちろん福利厚生も充実も意識していて、一般の人が持つ牧場のイメージとは違うかもしれません。従業員が無理なく仕事を続けられるように、勤務時間や休みを明確にして、一般の会社勤めに近い環境にすることが大切だと考えています。

○牧場を経営する上で、直方ならではのメリットやこだわりはありますか。

現在、河川敷を活用して自給粗飼料（牧草）の生産を行っています。一般的に畜産経営

牛を身近に感じてもらい、牛乳や牛肉が牛から生産されて食卓に並んでいることを伝えられていることです。子どもたちの反応が良くて、中には牛との別れを惜しむ子どももいるので、取り組んで良かったなと思います。今では「酪農教育ファーム」にも認定されています。

○仕事のやりがいについて教えてください。

いろんな業務に対してやりがいを感じますが、中でも牧草（粗飼料）を刈り取った後のきれいな河川敷を見ると達成感があります。そしてその草を食べて牛たちが成長し、得られた精肉や牛乳が社会の役に立っていると思うとやりがいを感じます。

○今後携わってみたいことや将来の目標を教えてください。

将来の夢は自分の牧場を持って経営することです。そのためにも今は人工授精師の資格を取ることを目標とし、ここで経験を積んで更なる技術を身に付けたいと考えています。牧場長としては、従業員皆が働きやすい環境を提供することを目指しています。

一般社団法人中央酪農会議が推進する、酪農家等が、主に学校や教育現場等と連携しながら、それぞれの牧場等が持つ多様な資源を活用して行う教育活動を「酪農教育ファーム活動」、その活動を行う牧場等を「酪農教育ファーム」といいます。

●会社名：農事組合法人楠木酪農生産組合

●所在地：永満寺 1347-73

●電話：22-0434 ●FAX：22-0433

●この記事に関する問い合わせ先
商工観光課工業振興係（TEL 29-3155）



▼農事組合法人楠木酪農生産組合写真集
day-by-day account of one's life より © 鶴健一朗

のコストに占める飼料費の割合は5割近くにもなることから、粗飼料の品質向上、収穫量の確保のために市内を流れる二本の川の河川敷を利用できることは、大変有意義なことです。また牧草の良し悪しは牛の健康状態に直結するので、自らの手で上質な粗飼料を作れる環境があるというのはメリットだと思います。直方は牛を飼うのに最適の環境です。

○地元で開催されるイベントで、動物と触れ合える場を提供されているそうですが、どのような思いで取り組まれていますか。

酪農をはじめ畜産全体をもっと知ってもらおう、理解してもらおうという気持ちから、地元の方々と交流していますが、「遠賀川わくわく夢フェスタ」や「チューリップフェア」などのイベントへの参加は、市民への恩返しだと思っています。

自分の牧場から育った和牛や牛乳が市民の食卓に並ぶのは、直方の自然豊かな土地を活かしてやっていることなので、直方と

▼農事組合法人楠木酪農生産組合写真集
day-by-day account of one's life より © 鶴健一朗



取材を終えて



乳製品や牛肉は、食生活に欠かせないものですが、その起源である酪農や牧場が、私にとっては身近なものでなかったのです。貴重なお話が聞けて良かったです。人工授精による繁殖など、重要な仕事の担い手がいるからこそ、安心・安全な食生活が送れているのだと実感しました。また、地域に根差した牧場であることも印象に残りました。牧場で働く方の今に至るまでの経験談、思いも聞けて良かったです。（北九州市立大学 二年 柿原友紀）



初めてのインタビューだったのですがとても緊張しました。牧場に行ったのも初めてで、生まれたばかりの子牛の様子や、実際の搾乳を間近で見る事ができました。また、人工授精や牛のお産についての話も聞かせていただき、牧場の仕事は常に命と向き合うとても大切な仕事なんだということを感じました。（北九州市立大学 二年 宮崎萌美）